

# 経営探訪

有限会社長沼製作所

技術を武器に未来に挑戦する

溶接を中心とした金属加工業として1959年創業。材料調達、レーザー加工、曲げ、溶接、焼鈍、ショットブラスト、機械加工、三次元測定機による品質保証までをワンストップで対応可能な高い技術力を有している。2019年「航空宇宙・品質マネジメントシステムJISQ9100」を認証取得し、「航空宇宙技能集団」を目指す。

## 少数精鋭のものづくり

幅広い業種の「ものづくり企業」が集積するにかほ市において、金属加工業として最も古い歴史を持つ企業のひとつが有限会社長沼製作所だ。同社は、三代目である長沼彰代表取締役の祖父が1959年に創業し、長年に渡り、TDK株式会社関連の仕事を中心に手掛けてきた。

現在では、にかほ市内で「溶接」「機械加工」「アルミフレーム」と職種分類別に3拠点で事業を展開し、材料の手配から製造・加工までワンストップで対応している。従業員は約30名と決して大きい規模ではないものの、熟練工のスキルと最先端の設備により、高度なものづくりを実現しており、食品、造船、鉄道など幅広い分野からの受注にえている。2019年には、航空宇宙・品質マネジメントシステムである「JISQ9100」を認証取得するなど、更なる高い品質を求めて日々挑戦を続けている。



「技術力は淘汰されない」

「創業当時から長い間、TDK1社依存の受注でした。祖父も父も職人で、従業員たちも皆高い技術を持っていましたが、製造業は景気に簡単に左右される仕事です。会社を存続させるため、父の時代から県内外の商談会に積極的に参加するようになり、今では、およそ250社との取引があります」。

祖父や父と違い、子どもの頃から人一倍不器用だったと笑う長沼代表は、一度、県外で異業種の営業を経験し、20代半ばで帰郷。苦しい時代を経験した父の親心が、会社を継げと言われたことはなかったという。しかし、「価格競争で企業が淘汰されることはあっても、技術力が淘汰されることはない」という強い思いから、現場で一心不乱に技術を磨いてきた。

## 成長分野へのアプローチとIoT化

「いかに付加価値の高いものを生産できるか。内部のマネジメントを構築し、高めながら、それを武器に販路拡大を推し進めていくのが経営者だと思います」。

そう語る長沼代表は、2019年3月に代表取締役に就任する以前から、父と共に会社の未来を見通し続けてきた。

経営基盤を強化すべく、毎年続けてきた取引企業の拡大も、ただ闇雲に数を増やしていったわけではなく、成長分野を予測し、自社の成長スピードに合わせた的確なアプローチを行うなど、将来を見据えた営業戦略を展開。また、競合他社との差別化を明確に意識しながら、中・長期的な目標を掲げ、熟練工の育成や技術力の強化、生産性向上といった社内改革にも積極的に取り組んできた。

現在、最も力を入れている航空機産業分野には、2006年度に発足した「秋田輸送機コンソーシアム」に参加したことがきっかけとなり、本格参入。海外視察やボーイング社認定の生産管理システムの導入のほか、国や県の補助金などを活用しなが



ら、最新鋭設備への投資を行い、「JISQ9100」の認証取得に至っている。

企業の高付加価値化への取り組みの中で、長沼代表の改革ともいえるのが、積極的なIoT化による生産性の向上だ。2018年、25台にものぼるハンディターミナルを導入したことにより、製造プロセスの見える化と生産効率が飛躍的に向上。リアルタイムに進捗や実績工数の確認ができるようになったことで生産計画が立てやすくなり、製造過程を紙で管理していた頃に比べ、粗利益は3倍にもなった。

「急激な変化に、始めは現場からの反発もありましたが、膨大な量の紙は、結局データをまとめる時間もないまま、捨てられていました。日々現場が生産管理に注ぎ込んでいる労力をなんとか軽減したかったんです」。

長沼代表の想いは伝わり、今ではベテランも軽々と使いこなしている。若手がベテランに使い方を教えることもあり、予期せぬコミュニケーションツールにもなったと笑顔を見せる。

さらに2019年3月からは、経理・購買・生産管理部門の従業員がIT専門家からAIやIoTの活用方法を学ぶ機会を提供し、社



内の働き方改革と環境に配慮したペーパーレス化を推進。今後5年以内の事務のNC(Numerical Control、数値制御)実現を見据えている。

## “人”とともに歩む未来

経営者としての長沼代表は、技術力で興した祖父とも、強力なリーダーシップで率いてきた父とも異なる。現場の苦労や達成感など、“職人の気持ち”を知り、胸を張って肩を並べられるよう、積極的に他社へ出向し、高度溶接技能やNC機械加工操作を学んできた。一連のプロセスを自身で経験したことで、従業員ひとりひとりとのコミュニケーションを大切に、様々な意見に耳を傾けながら慎重にかつ大胆な変革をもたらしている。

「皆の力を借りながら成長を続けたい。目標は、地域で一番給料の高い中小企業製造業です」。そう語るように、同社では、外国人のインターンの受け入れを始め、父の背中を見て同じ職場を選んだ息子や、50代になってから正社員に登用された従業員が在籍する。最年長は、祖父の時代から三世代の時代を知る70歳を超えるベテランだ。男女の区別も国籍も年齢の制限もない。意欲をもって働きたいと望む人たちを長沼代表は歓迎する。

「“継続は力なり、さらなる継続は宝なり、永遠の継続は歴史なり”。このにかほ市で、航空宇宙に携われる程の技術力をもった企業として、皆と共に新しい歴史を作っていきたいですね」。

掲げるビジョンは、“キラリと光る航空宇宙技能集団”。誇り高きゼネラリストたちは遥か高みを目指し、今日もその技術を磨き続ける。

- 1 2019年に導入した高精度・高効率の5軸複合加工機。
- 2 熟練工の高い技術力による溶接作業。
- 3 顧客への迅速な対応と業務の効率化を目的として導入されたハンディターミナル。
- 4 最新機器の操作では若手社員も活躍している。



## 有限会社長沼製作所

〒018-0411  
秋田県にかほ市院内字下横根2-1  
TEL. 0184-36-3575  
FAX. 0184-37-2240  
<http://naganuma-akita.co.jp/>

- 資本金 / 1,000万円
- 従業員数 / 36名
- 営業品目 / 溶接・板金加工、機械加工部品の製造

代表取締役  
長沼 彰  
ながぬま あきら